

小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会

第2回 市民意見交換会 概要

日時：平成24年3月6日（火）18:30～20:30

会場：川東タウンセンターマロニエ 3階 301会議室

出席者（五十音順 敬称略）

・講師

河口真理子（株式会社大和総研 環境・CSR 調査部）

・小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会委員

【会長】鈴木博晶

【コーディネーター】志澤昌彦、鈴木大介

【委員】井澤幸雄、大塚啓介、鈴木倂介、鈴木伸幸、中矢慎一、西山敏樹、原正樹、蓑宮武夫、山崎淳一

・小田原市事務局

環境部副部長、環境部管理監、エネルギー政策担当副課長、環境政策課係長、環境政策課係員2名

・オブザーバー（一般社団法人 日本再生可能エネルギー協会）

浦井彰、古屋将太

・参加者

14名

結果概要

<1 開会>

<2 小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会 会長あいさつ>

<3 講演>

「エネルギーの地産地消～生活者の手と知恵とお金で、再生可能エネルギーを！～」

株式会社大和総研 環境・CSR 調査部 部長 河口 真理子

<4 小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会の活動報告>

<5 会場との意見交換>

質問1：震災時の電力需給について

①震災等の自然災害に備え、避難所や道路信号への電力供給を、再エネ協議会の事業計画として検討してもらえないだろうか。

質問回答1（コーディネーター）

①検討していきたい。

意見1：市民の意識について

- ①自分の周囲には意思はあるものの、お金は無い人がいる。市民ファンドによって事業を組立てた場合、そういった意識が高い人がいても、そのうち、お金のある人だけが議論に加わり、そうでない人の意識が離れてしまうのではないかと危惧している。

意見回答1（コーディネーター）

- ①ファンドという考え方でさえ、まだ一般的には浸透していない。検討している事業の仕組みをもっと目に見える形にして、わかりやすい情報を伝える必要があると考えている。また、参加者が、参加している感覚を損なわないためにも、お金がどう使われているかをわかりやすくする方法を、地域特性を踏まえ検討する必要もある。

質問2：アンケート結果からみた、市民出資の可能性について

- ①今回アンケートを実施したことによって、現実とは別としても、どれくらいの市民出資が見込めるのかは想定できると思うが、現在検討している事業スキームと照らし合わせた場合、市民中心の出資で事業が成立するのか、あるいは証券会社への相談や、地元金融機関からの出資等も必要としているのか。

質問回答2（コーディネーター）

- ①ファンドの規模に対してどれだけの総事業費を必要としているのかについては、現在、太陽光パネルの設置施設の洗い出し等、事業計画を検討している段階なので、確定していない。

ただし、この協議会が参考としているおひさまファンドでは、直近のファンドで、合計810口、8,100万円を集め、市民出資による0円ソーラー事業を実施している。東日本大震災以降は人々の意識に変化があり、かなり早い段階でお金が集まったと聞いた。構成は一口10万円だった。

市民出資中心での運営になるか、地元金融機関へ融資を依頼するかは、事業費の総額次第である。しかし、最終的には民間企業によって事業化することから、安定的事業経営のためにも、100%市民出資による事業経営は難しいのではないかと考えている。

質問3：協議会報告の内容について

- ①協議会の報告の中で、市民・事業者へのアンケートのまとめとして、「投資希望額は比較的少額」とあるが、個人的には、出資者の意志を考慮して、少額ではないと感じた。

質問回答3（コーディネーター）

- ①「少額」というのは、想定している10万円と比較し、それに対して金額が少ないということを表している。表現を改める。

意見2：アンケート調査の設問について

- ①今回、アンケート対象者の年収については設問を設けていないが、これを調べることによって、年収に対しての出資希望額が分かり、市民の支払意識について調査することもできる。

質問5：再生可能エネルギーの導入等について

- ①再生可能エネルギーには太陽光以外にも、水力、風力とある。「小田原らしい」というのが太陽光なのかについては、疑問がある。
- ②不明点の多い対象へ10万円を出資する人はまれであると思う。
- ③現在、再生可能エネルギーは、良さばかりが着目されているが、エネルギーとして不安定であるなどの欠点もある。協議会として、今後は全部の情報を出すべきである。
- ④個人的に既に太陽光パネルを設置したものの、初期投資の費用は高額だった。事業が開始された後、設置済みの人と、市民出資によりシステムを導入した人との間で不公平感が無いようにしてほしい。

質問回答5（コーディネーター）

今年度は、太陽光発電から検討を開始したが、来年度以降、事業化の可能性のある再生可能エネルギーについては、順次、事業化検討チームを立ちあげ、調査・検討を進める。また、今回の調査により、再生可能エネルギーの一番の問題点は、再生可能エネルギーについての情報不足であるということが明らかになったこともあり、情報は隠さず、むしろ共有し、メリット、デメリットをともに参加者へ提示したい。

意見3：協議会への要望

自分は片浦で、食とエネルギーについて取り組んでおり、まずはエネルギーを身近に感じることから、自然エネルギーへの移行が始まるのではないかと考えている。手作りで太陽光パネルを作ったこともある。来年度は、太陽熱温水器や、小水力発電も作りたいと考えている。

今回の意見交換会で、市民出資によって、再生可能エネルギーを導入する仕組みを作り、社会を動かすのはとても重要であると感じており、そのようなマクロの視点と、今、自分に取り組んでいるようなミクロの視点を共有したいため、今後、情報交換をしてほしい。

意見回答3（コーディネーター）

エネルギーはこれまで遠い存在だったが、今後はもっと身近なものにしたい。おひさま進歩エネルギー株式会社の担当者からも、エネルギーと地域の人といかに結びつけるかが重要であるとの説明を受けた。ぜひ、今後も情報の共有化も図ってきたい。